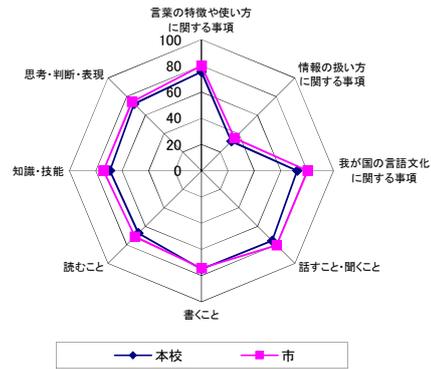


宇都宮市立国本中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	75.5	80.0	76.5
	情報の扱いに関する事項	31.9	35.2	29.3
	我が国の言語文化に関する事項	72.4	80.4	63.1
	話すこと・聞くこと	75.6	80.4	77.7
	書くこと	75.0	74.3	62.9
観点別	読むこと	67.5	71.2	65.8
	知識・技能	69.3	74.1	68.4
	思考・判断・表現	72.1	74.3	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

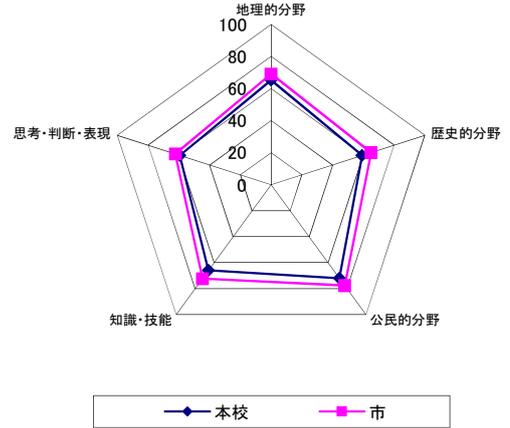
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>本校の正答率は、市の平均正答率よりも4.5ポイント下回っている。</p> <p>○用言の活用についての問題は市平均をわずかに上回っている。</p> <p>●中学校3学年までの漢字の読み、小学校で学習した漢字の書き、についてはおおむね理解されているものの、市平均を下回っている。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・3年間を見通した文法学習を行い、繰り返し問題を解き、達成感を積み上げさせることで苦手意識をなくしていきたい。</p> <p>・「読めるが書けない」生徒が非常に多く、特に、小学校における既習漢字がうろ覚えで普段の生活で使いこなせていない傾向がある。定期的に漢字練習帳を提出させし、確認テストを行うことを継続し、既習漢字を復習する機会を多く設けることで定着を図りたい。</p>
情報の扱いに関する事項	<p>本校の正答率は、市の平均正答率よりも3.3ポイント下回っている。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、論理の展開の仕方を捉える問題の正答率は29.3ポイントにとどまり、市平均も6.7ポイント下回ることから、大きな課題が残る。</p> <p>●情報と情報との関係について理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫しているかを問う問題は、市平均をわずかに上回っているものの、正答率が34ポイントにとどまっており、大きな課題である。</p>	<p>・多くの情報を比較・整理しながら、それらの関係性を考えて論理の展開を捉えるなど、説明的文章を的確に読み取る訓練を、短いものからだんだんとスキルアップして行っていく。</p> <p>・情報の関係性を捉える読解の訓練をしたうえで、多くの情報を比較・整理しながら言語化できるようにしたい。</p> <p>・比較の観点や、根拠を明確にすることなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章を書くポイントを、実践を通して力をつけさせたい。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>本校の正答率は、市の平均正答率よりも8.0ポイント下回っている。</p> <p>○多くの生徒が現代語訳を手掛かりに古典を読むことができており、市平均を4.6ポイント上回っている。</p> <p>●古典に苦手意識をもっている生徒が多く、歴史的仮名遣いを問われる問題の正答率が市平均を20.5ポイントと大きく下回っている。</p>	<p>・歴史的仮名遣いなど、古典学習の基礎を再確認し、古典を読む訓練を継続的に行っていく。</p> <p>・現代語訳を手掛かりに古典を読む問題は正答率も高く、多くの生徒ができていますので、現代語訳を利用しながら読解への自信を付けさせ、古典への苦手意識を解消していきたい。</p>
話すこと・聞くこと	<p>本校の正答率は、市の平均正答率よりも4.8ポイント下回っている。</p> <p>●話の展開に注意しながら聞き取る問題の正答率は、70ポイントを超えているものの、市平均を12.3ポイント下回り、課題が残る。</p> <p>●自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話す問題の正答率は市平均との差は大きくないものの、52.6ポイントであり、課題が残る。</p>	<p>・聞き取りの練習を継続して行うことで、話の趣旨を正確に聞き取る力をつけさせる。また、先生の話や級友の意見を聞きながらメモを取る訓練を継続的に行っていく。</p> <p>・授業で話し合い活動を積極的に取り入れ、相手の伝えたいことを正しく聞き取った上で自分の意見を分かりやすく述べられるようにしたい。意識して「聞く」「話す」ことにより話し合いのスキルの向上を目指す。</p>
書くこと	<p>本校の正答率は、市の平均正答率よりも0.7ポイント上回っている。</p> <p>○指定された文字数・構成で、読み取った内容と自分の考えを明確にして書くことができる。</p> <p>●多様な読み手を説得できるように文章の構成を工夫して書く問題で、市平均を9.7ポイント下回っている。</p> <p>●型のある200字程度の作文が「全く書けない」無回答の生徒も一定数存在する。</p>	<p>・自分の考えと根拠を明確にし、具体例や体験を示す練習を多く取り入れ、論理的な文章を「書くこと」への苦手意識を取り除いていく。さらに反対意見に対する反論を示すことで、より文章に強い説得力を持たせたい。</p> <p>・原稿用紙の使い方を改めて確認し、示された型どおりに書く練習をしていく。</p>
読むこと	<p>本校の正答率は、市の平均正答率よりも3.7ポイント下回っている。</p> <p>○文学作品の読み取りでは、文章の表現の仕方について評価する問題で市平均を2.2ポイント上回った。</p> <p>○文学作品の読み取りでは、物語の展開の仕方を捉えられていない生徒が多いことがわかる。</p> <p>●説明文の読み取りでは、全体を通して市平均を下回った。</p>	<p>・筆者の主張とそれを支える根拠（論証）を意識して説明的文章を読もうとすることや、登場人物の言動の意味を考えて心情を読み取るとうとすることができるが、教材文以外の文章にその技術を生かし切れないので、今後も多彩な作品に触れる機会を設け、言語感覚を磨かせたい。</p> <p>・漢語の多い説明的文章の読解を苦手とする生徒が多いので、朝の読書やブックトークにより読書習慣を多くの生徒に身に付けさせたい。</p>

宇都宮市立国本中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	65.3	69.2	61.5
	歴史的分野	59.2	65.1	59.1
	公民的分野	72.0	77.6	71.6
観点別	知識・技能	66.0	72.2	66.8
	思考・判断・表現	59.3	62.3	53.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

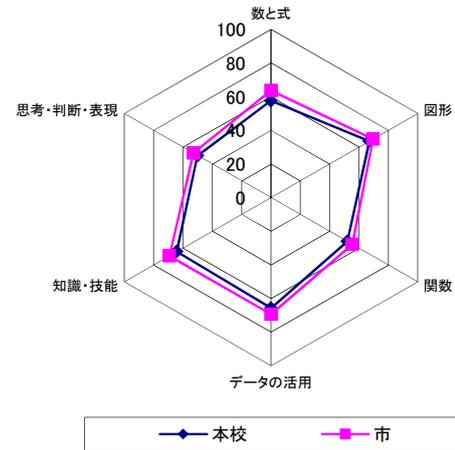
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○昨年度と比べて正答率が8.5ポイント上昇し、市平均との差も縮まった。「世界の姿」「日本の地域的特色」に関する問題は、全国平均を上回っており、資料を活用した記述問題は市平均も上回っていた。</p> <p>●正答率が65.3ポイントで、市平均を3.9ポイント下回った。正答率が50ポイント未満となったのは「九州地方の産業」に関する問題で、37.9ポイントと特に低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの話し合い学習や、自分の考えをレポートにまとめて発表する学習を多く取り入れる。 ・地図やグラフ等の資料活用の学習を多く取り入れる。 ・基本的な重要語句の反復学習を行う時間をとるとともに、入試問題等を活用し、様々な問題を多く解く機会を増やす。
歴史的分野	<p>○昨年度と比べて正答率が6.6ポイント上昇し、市平均との差も縮まった。「古代までの日本」「近世の日本」に関する問題は、全国平均と比べて高い傾向にある。</p> <p>●正答率が59.2ポイントで、市平均を5.9ポイント下回った。正答率が50ポイント未満の問題が15問中6問あり、そのうち4問が「江戸時代」に関するものであった。その中でも『問屋制家内工業』に関する問題は、24.1ポイントと特に低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人物に焦点を当て、「だれが」「いつ」「何をした」という形式のまとめを行うことで、基本的なできごとをわかりやすくまとめる学習を取り入れる。 ・年表を利用し、政治・文化・経済等の歴史の流れを把握する学習を多く取り入れ、時代ごとの特色をわかりやすくまとめる学種を取り入れる。 ・基本的な重要語句の反復学習を行う時間をとるとともに、入試問題等を活用し、様々な問題を多く解く機会を増やす。
公民的分野	<p>○正答率が72.0ポイントと三分野の中で比較的高い。「私たちの生活と現代社会」「人間の尊重と日本国憲法」に関する問題は、全国平均を上回っており、『フランス人権宣言』『新しい人権』の問題は市平均も上回っていた。</p> <p>●正答率が、市平均を5.6ポイント下回り、昨年度と比べて2.5ポイント下回った。正答率が50ポイント未満となったのは市独自の問題である『憲法改正の手続き』に関するもので、31.9ポイントと特に低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地理・歴史的分野との関連が強い分野では、引き続き学習をリンクさせ、更なる知識・理解の定着をはかる。 ・グループでの話し合い学習や、自分の考えをレポートにまとめて発表する学習を多く取り入れる。 ・インターネット等を活用し、現代社会の課題についてより具体的に知識を取り入れ、社会の一員として、課題解決に向けた考察を積極的に行える授業を展開する。

宇都宮市立国本中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	57.6	63.7	61.5
	図形	67.1	69.6	61.1
	関数	52.2	55.4	43.5
	データの活用	65.7	69.3	64.2
観点別	知識・技能	64.2	69.2	65.3
	思考・判断・表現	50.0	52.9	42.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

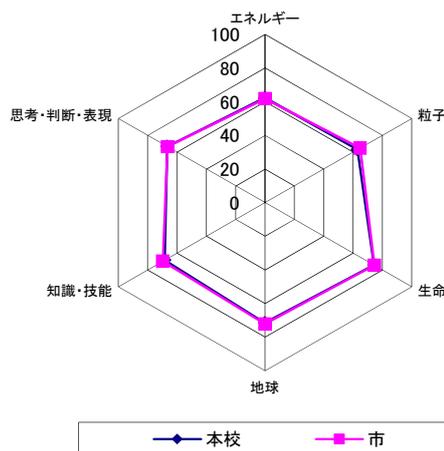
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○式の計算や、連立方程式などで市の平均に近い正答率だった。ただ、誤答例を見ていると単純な計算問題でも符号のつけ忘れやカッコのつけ忘れが目立った。</p> <p>●式の展開では5.3ポイント、平方根の計算では市の正答率を4ポイント下回った。</p>	<p>・基礎的な計算問題が1年2年時にはできたものが、3年になり出来ていない生徒が見られる。繰り返しの反復練習が足りないのも一つの要因かと思われる。授業の折に、既習事項の確認をする時間を設け、基礎的な計算の方法についての定着がはかれるよう指導していく。</p>
図形	<p>○平面図形の問題、特に平行移動の問題では市の平均を1.6ポイント上回る結果だった。</p> <p>●証明の問題は市の正答率よりも5.3ポイント下回っていた。また、三角形の合同条件を覚えていない生徒も誤答例からみられた。図形の単元の証明に対して苦手意識を持っている生徒が多いことが分かった。</p>	<p>・問題練習や復習の時間を通して、必要事項が定着するよう指導していく。また、空間図形では模型なども利用しながら、立体のイメージがつかみやすくなるよう、指導していく。</p>
関数	<p>○グラフ上の座標の関係性を問う問題では、市の平均より2ポイント上回っていた。</p> <p>●1年時の比例と2年時の一次関数を融合した面積を求める問題は10.1ポイントと大きく下回っていた。</p>	<p>・利用の問題では、文章、表、式、グラフなどが結びついて理解できていない現状がある。文章があらわすものと、式やグラフがあらわすものが同じだということに目が向くように、文章から読み取れるものを利用して式を立てることに重点を置く。</p>
データの活用	<p>○ヒストグラムを読み取り、その特徴をもとに説明する問題は市の平均より3.7ポイント上回っていた。</p> <p>●昨年度から新しい単元として入ってきた箱ひげ図の問題では7.7ポイント下回っていた。</p>	<p>・資料の活用を学習する際、語句が多く、混同しやすいため、それぞれの意味を理解させようとして、多くの問題練習に取り組むよう心がける。また、箱ひげ図の問題はこの学年の2年時から導入された単元でもあり演習不足の面もある。既習事項の復習をする時間を捻出し、学習内容の定着がはかれるよう指導していく。</p>

宇都宮市立国本中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	62.3	61.8	60.6
	粒子	63.0	64.8	54.0
	生命	74.2	74.5	66.6
	地球	71.6	72.1	63.0
観点別	知識・技能	68.4	69.6	63.4
	思考・判断・表現	66.7	66.5	57.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

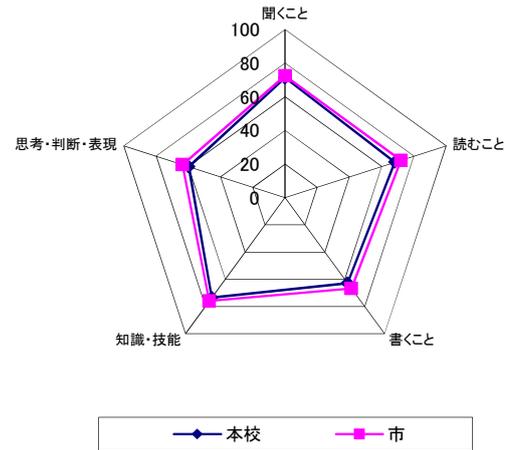
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○電流が流れるコイルが磁界から受ける力の向きに関する問題の正答率が市の平均を5ポイント上回っている。</p> <p>○仕事とエネルギーに関する問題の正答率がすべて市の平均を上回っている。</p> <p>●電流がつくる磁界の向きに関する問題の正答率が市の平均よりも10ポイント以上下回っている。</p>	<p>・電流の向きや磁界の向きなど、実際には目で直接見えないもの理解が進むように、正しいモデルの提示を心がける。</p> <p>・計算により数値を求める問題については、簡単な問題を繰り返し解かせることによって慣れさせていくことも大切である。</p>
粒子	<p>○アンモニアの性質と気体の集め方に関する問題の正答率が市の平均を4ポイントほど上回っている。</p> <p>●酸化銀の熱分解に関する問題の正答率が市の平均よりも下回っているものが多い。</p> <p>●酸とアルカリの反応をイオンで考える問題の正答率が市の平均よりも下回っている。</p>	<p>・材料が高価で手に入りにくいものを使った実験でも、なるべく演示だけでも本物を見せることによって理解を深められるようにする。</p> <p>・エネルギー分野と同じく、直接目で見えないもの(イオンなど)をモデルで表すとき、よりわかりやすいモデルの研究を進める。</p>
生命	<p>○植物の分類に関する問題の正答率が市の平均を4ポイントほど上回っている。</p> <p>○染色体に関する問題の正答率が市の平均を5ポイント上回っている。</p> <p>●イチゴの分類に関する問題の正答率が市の平均よりも下回っている。</p>	<p>・基本的な学習内容に加えて、発展的な内容の学習にも少しずつ取り組ませる中で、科学的な思考力や表現力を身につけさせたい。</p> <p>・普段の授業の中で、「理由」を答える(書く)練習を積み重ねるようにしていく。</p>
地球	<p>○初期微動継続時間を求める問題の正答率が9割を超えている。</p> <p>●地震が発生した時刻を求める問題の正答率が市の平均よりも5ポイント下回っている。</p>	<p>・計算を含めた科学的な思考力が育っていない現状があるので、その改善のために例題を用いて丁寧に解説することに努める。</p> <p>・図やグラフが表そうとしているものを読み解く能力を育成していく必要がある。</p>

宇都宮市立国本中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	71.3	72.5	70.5
	読むこと	68.2	71.9	66.9
	書くこと	62.8	66.8	59.7
観点別	知識・技能	73.5	76.0	73.9
	思考・判断・表現	59.7	63.6	55.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○英文を聞きその内容に合う絵を選ぶ問題(内容理解)において全国、市の正答率ともに若干上回った。</p> <p>●全体としては、正答率が71.3ポイントで、市平均を1.2ポイント下回った。対話を聞きその意味を理解して答える問題(対話文の応答)では、市の正答率を下回った。また、対話文を聞き資料をもとに英語で答える問題では、市の正答率を大きく下回り、大きな課題である。</p>	<p>・対話文の聞き取りで内容を掴めるよう、まとまった量の英文を聞クリスニングの機会を増やす。</p> <p>・中学1年次に学習する基本的な語句・表現の定着を図るために、ディクテーションに取り組みさせるなど、語彙力の向上も目指す。</p>
読むこと	<p>○基本的な語形・語法の理解の問題のうち、受け身の問題では市の正答率を、現在完了(経験)の問題では全国の正答率を上回っている。</p> <p>●全体としては、正答率が68.2ポイントで、市平均を3.7ポイント下回った。長文読み取り問題では全て市の正答率を下回り、特にメールを読みその内容を把握する問題では、市の正答率を大きく下回っている。</p>	<p>・基礎となる1, 2年生の文法事項が定着していないことが明らかであることから、復習の時間を確保できるよう授業展開を工夫する。</p> <p>・教科書本文の学習を通して、英文の構造や語順について学ぶ機会を作り、読解力の向上を目指す。</p> <p>・まとまった量の英文の中から、必要のある内容を読み取る力を身に付けさせるために、チャンクごとに意味を取ったり、代名詞を確認するなど、授業で多くの英文に触れる機会を作る。</p>
書くこと	<p>○対話の流れに合った英文を書く問題のうち、whyを使って理由をたずねる英文を書く問題では、全体的に低い正答率ではあるが、全国、市の正答率ともに上回っている。3文以上の英作文では、条件通り書けた生徒が市の平均を上回った。</p> <p>●上記の問題以外はすべて市の平均を下回り、全体としては、正答率が62.8ポイントで、市平均を4.0ポイント下回った。中でも動名詞の疑問文、使役のmakeの問題は大きく下回った。</p>	<p>・表現しようとする意欲は見られるため、短文で表現する練習から徐々にステップアップできるよう課題を工夫する。</p> <p>・英語の品詞や語順、be動詞・一般動詞の違いなど英文の土台となる知識の定着に課題があることから、本文の内容理解に留まらず、ディクテーションなどに取り組みさせ、モデルとなる表現に多く触れさせる。</p>

宇都宮市立国本中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○宇都宮モデルに基づく授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な発問、指示、助言、板書の工夫 宇都宮モデルに基づく授業改善(めあての提示、振り返りの実施) 「学習の約束」の周知、掲示 	<ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組みに関する質問の肯定割合は、いずれの質問においてもおおむね市の平均と同程度である。 「勉強が好きですか」、「学校の授業がどの程度分かりますか」に対する肯定割合はいずれも、市の平均と前年度の結果を上回っており、特に「学校の授業がどの程度分かりますか」の質問においては、88.0ポイントの肯定割合と、市の平均(82.4ポイント)を大きく上回った。
○学びに向かう力の育成と学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「学習の約束」に基づいた学業指導 協働的な学習の推進 学習相談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定割合は80.3ポイントで、市の平均と同じであり、平日の学校の授業以外の学習時間が1時間半以上であると回答した生徒の割合も、市の平均よりも多い(本校90.7ポイント、市平均86.1ポイント)。 「勉強が好き」「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」と回答した生徒の割合も、市の平均を上回っており、学習に対して前向きに取り組む生徒が多い。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・生徒が教科学習に興味を持ち、主体的に学習に取り組む意欲を一層高めていくために、各教科担任一人ひとりが学習指導要領に基づく教材研究をより充実させ、設問の工夫やタブレット、ICTの活用を推進していくとともに、学校として宇都宮モデルに基づく授業改善を継続していく。

・授業で習ったことを自分なりに分かりやすくノートにまとめたり、新しく習ったことを何度も繰り返して練習したりする生徒の割合が市の平均からやや劣る。また、授業で習ったことをその日のうちに復習したり、テストで間違えた問題をやり直したりする生徒の割合も同様であることから、効果的な学習の仕方についても機会を捉えて生徒・保護者へ発信していく。